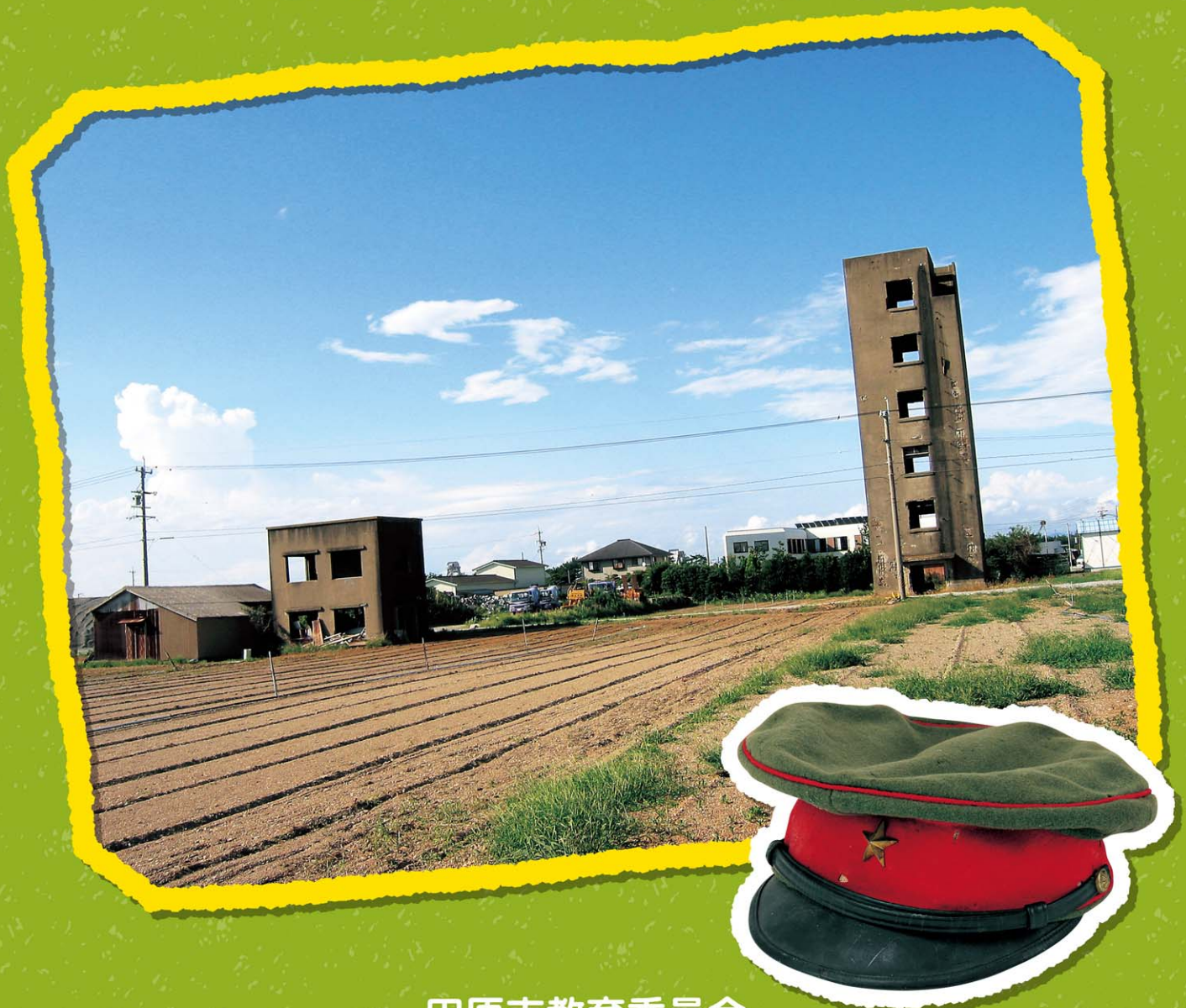


田原の文化財ガイドV

渥美半島の 戦争遺跡

たはらの戦争遺跡



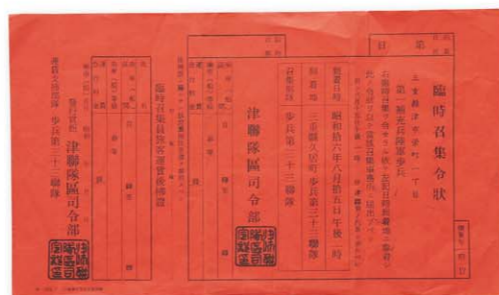
田原市教育委員会

戦争中の暮らし・パートI

● 徴兵・出征・復員・銃後の守り (配給・供出)

※銃後…本来は戦場の後方のこと。直接戦争をしない一般の国民のことをいった。

わたしたちの暮らす田原市には、幸いにも隣の豊橋市や豊川市、浜松市のような大きな空襲などの被害がなかったために、あまり戦争には関係が無かったと考える人もいるかもしれないけど、戦争中は多くの人々が戦地へ行かれ、命を落とされたり、戦地で大変な苦勞をされて故郷に戻ってこられた人がたくさんいたんだ。



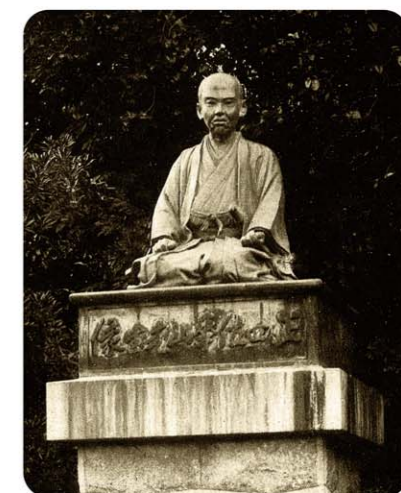
臨時召集令状 (赤紙) 複製



衣料切符



米穀配給通帳



供出された初代渡辺華山銅像
1943 (昭和18) 年4月供出



軍服と軍帽 (陸軍)

兵士が戦地へ持っていったもの

戦争中の学校生活

● 食糧増産・勤勞奉仕・軍事教練・学徒勤勞動員

当時の子どもたちが通っていた学校でも普通の授業はあまり行われず、運動場を畑にして食べ物を作ったり、人手の足りない家の農作業を手伝ったり、男の子や女の子も敵と戦うための訓練をしたりしたんだ。中学生や小学校高学年の子どもたちの中には学校で戦争をするための道具を作る工場(軍需工場)へ働きに行く人もいたんだ。



慰問袋



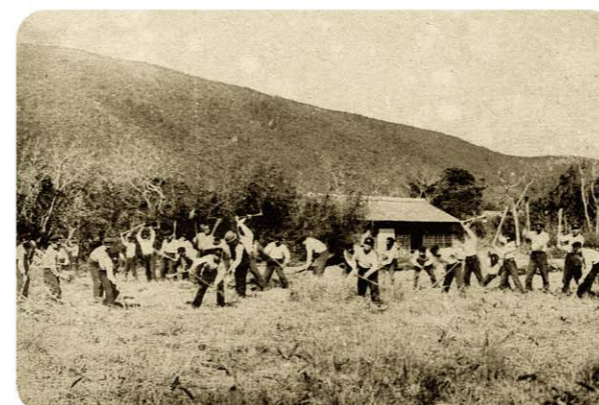
弾丸防湿作業 (豊川海軍工廠)

また、働き盛りのお父さんや若い男の人たちが戦争に行ってしまう、残されたお母さんやおじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちは、家の仕事や戦争を続けるための様々な協力を一生懸命していたんだ。毎日のごはんを作るのに必要なもの(米や塩など)や生活に必要なもの(衣服やマッチなど)が配給制となって、自由に食べたり、ものを買ったり着たりすることができなくなり、「ぜいたくは敵だ」「ぜいたくはできないはずだ」を合言葉に不自由な暮らしをしなければならなかったんだ。ほかにも戦争が長く続いたため、たくさんの武器(鉄砲や大砲、弾丸や砲弾など)や兵器(飛行機や戦車など)をつくるための金属が必要となって、家にある鍋や釜、お寺の鐘までもが国に引き取られ、武器にかわっていったんだ。

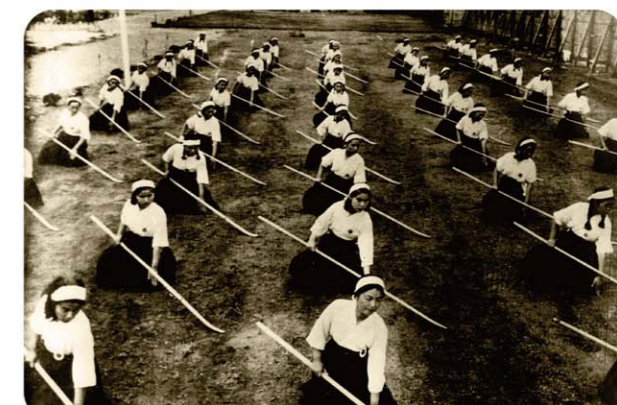


慰安演芸会(於福江座) 大日本国防婦人会福江町分会 1939 (昭和14) 年

大日本国防婦人会たすき
大日本国防婦人会



開墾作業 (成章中学卒業アルバム) 1938 (昭和13) 年



なぎなたの訓練 (豊川海軍工廠)

戦時中の暮らし ● パートII

● 空襲・本土決戦・水際作戦(部隊の駐屯)

渥美半島は、東から西に長くのびた半島なので、本格的な日本本土への空襲が始まった1944(昭和19)年7月(サイパン島陥落)からは、多くのアメリカ軍機がこの半島の上を飛んでいったんだ。なぜかという、渥美半島は中部地方の工場や都市(名古屋など)を空襲する飛行機(爆撃機B29や艦載機など)の通過道にあっていたからで、敵の飛行機が近づくと出される警戒警報や空襲警報が毎日のように出されていたんだ。実際に農作業や海で漁をしていた人の中には、艦載機などによって攻撃(機銃掃射)され亡くなった人がいたり、終戦前日の8月14日には渥美線が銃撃され15人の即死者と16人の負傷者が出るという悲惨な事件もおきているんだ。こうしたことから半島内には、敵の飛行機を監視するための見張り施設がつくられたりもしていたんだ。

太平洋戦争の終り頃(1944~45年)になると、アメリカ軍が日本の本土に上陸してきた時には国民全員で最後の最後まで戦うという教育のもとに、本土決戦に対する準備(水際作戦)が進められていたんだ。1945年6月、激しい地上戦の末に沖縄がアメリカ軍に占領されると、いよいよ本土での決戦ということで、この頃から竹やり訓練や爆弾(手榴弾)を持って上陸した戦車につっこむといった特攻訓練が繰り返されるようになったんだ。この半島でも小学校の児童やお年寄りの山村への集団疎開がほとんどの人たちが何も知らされずに進められたりもしていたんだよ。



渥美線電車への機銃掃射(イメージ)



強力消火弾

灯火カバー

防空すきん



防火訓練(豊川海軍工廠)

渥美半島の表浜(太平洋)は、片浜十三里と呼ばれる砂浜と遠浅の海が続き、アメリカ軍がここに上陸してくる可能性があったので、1944年9月には「怒部隊」(第73師団、第198連隊)が、1945年4月からは伊良湖岬周辺を中心に「護京部隊」(第153師団、第441連隊)が置かれて、米軍の上陸に備えるための陣地(大砲陣地、掩体壕、戦車壕、待避壕など)があちこちにつくられたんだ。

戦争がもう少し長く続いたら、渥美半島が沖縄と同じように戦場になったかもしれないかと考えると、渥美半島と戦争も決して他人事ではないと感じることができるはずだね。



表浜へのアメリカ軍の上陸(イメージ)

終戦直後の暮らしと学校生活

● 復員・配給・買い出し・民主教育

1945(昭和20)年8月15日、長く続いた戦争は日本の敗戦に終わり、戦地やそれまで日本の領土であった所から日本に帰る人たちの中には、大変な思いをされて帰国した人も多くいたんだ。国内ではあいかわらずの物不足で、国から配給されるものだけでは足りず、都会の人たちは渥美半島へも食料などを求めて買い出しにきたりしたんだ。学校では、日本を占領した連合国の指導により、民主教育が進められ、それまでの教科書で戦争にかかわりのある部分などを墨で消した教科書で勉強したりもしたんだ。



シベリア抑留者が持って帰ってきたもの



衣料切符(戦後)



墨塗り教科書(初等科 国語八「鎌倉」)



リュックサック(買い出しに使用)

戦争遺跡って？

みんなが暮らしている渥美半島(田原市)には、今から70年前の太平洋戦争が終わるまで、たくさんの戦争にかかわりのある施設や多くの兵隊さんたちがいたんだよ。

これらのうち、今でも見ることのできる戦争の跡などのことを「戦争遺跡」と呼んでいるんだ。戦争遺跡は、かつての日本が戦争をしていたころのことを伝えてくれる貴重な文化財(場所)として、また現在の平和な日本を考えるきっかけとなる場所として、これからも大事にしていかなければならないんだ。

ここからは、渥美半島に残されている代表的な戦争遺跡について紹介しよう!!

陸軍「伊良湖射場」

●陸軍「伊良湖射場」とは

陸軍伊良湖射場は、火砲(大砲など)の性能向上に伴い、1901(明治34)年、日本陸軍の大砲の実射試験場として設置された施設です。正式名称は「陸軍技術研究所伊良湖試験場」で、大砲・弾薬の研究や効力実験、弾道研究、採用検査などが行われていました。陸軍が使用する大砲や弾薬のほとんどがここで試験審査を受け、戦地へ配備されていたのです。施設敷地は、小中山町の田戸神社付近を中心に西山・伊良湖地区(一部)を含む広大なものでした。



伊藤厚史「陸軍伊良湖試験場の沿革と現存する建物群について」『愛知県史研究第4号』2000年を一部加筆して転載

●伊良湖射場入口(正門)付近

小中山町田戸神社入口付近に伊良湖射場の正門がありました。この門はコンクリート製で、高さが約1.9mあり、以前は上部が欠け試験場の名前だけが残された表札がありましたが、現在は新しいものに替わっています。当時の写真には、小中山の港から走る軽便鉄道の線路が見えます。



●警戒哨舎と境界石柱(移設)

伊良湖射場は、軍用地として一般の人たちの立ち入りが制限されていました。警戒哨舎は、射場内へ侵入する人たちを警戒するために建てられたもので、射場敷地(軍用地)には何か所もありました。また、射場敷地(軍用地)と民有地を区別するための境界石柱(銘「陸軍省所轄地」)もありました。



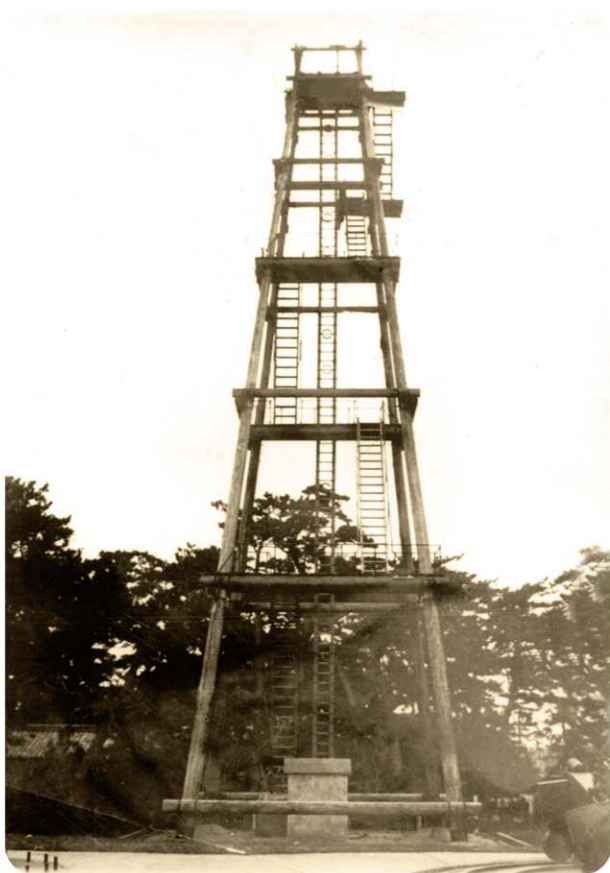
● 気象塔兼展望塔と無線電信所

伊良湖射場関連の戦争遺跡の中で、最も目立つ存在の施設です。通称「六階建」と呼ばれる高さ約19mの気象塔兼展望塔は、1930（昭和5）年の建設で、大砲の弾道や風速・風向きなどの観測を行っていました。無線電信所は、高さ約7mの二階建てで、点在する観測所や監所的との連絡を行っていました。



● 信管検査施設兼展望台

小中山町田戸神社の境内にあって、砲弾の信管を検査するために旧砲床の東側に建てられていました。当時の写真には、木製の檣で組まれた高い展望台があり、六階建が完成する以前はここで気象観測などが行われていました。現在は、檣の下にあったコンクリート製の直方体と檣の基礎部分を見ることができます。



● 伊良湖ベトン

伊良湖シーサイドゴルフ倶楽部の駐車場地内にあり、現在は築山として利用されています。ベトンとは、フランス語でコンクリートのこと。厚さ約2mのコンクリート製で、弾丸をこれに向けて発射し、コンクリートがどれくらい壊れるかなどを試験するためにつくられました。



● 伊良湖集落移転記念碑(新・旧)

伊良湖村は、伊良湖射場の用地を拡大するため、1906（明治39）年に全村が現在の所に集落移転しました。この記念に建てられたのが旧碑（写真右）です。2005（平成17）年には、移転100周年を記念した伊良湖集落移転記念碑が伊良湖自治会により建てられました。その碑面には、伊良湖を訪れ、後に日本民俗学の父となった柳田國男の「願はしきものは平和なり」が刻まれています。



● 福江(富)観測所

田原市役所渥美支所の西側古田町岡ノ越地内の標高約40mの小高い丘にあります。建物は、レンガ造の平屋建、屋根はコンクリート製で、北側は展望台となっており、ほぼ完存の状態で残されています。1919(大正8)年の建設で、監的施設とともに遠距離射撃の際に砲弾を観測する施設でした。



● 外浜観測所

日出町にある日出園地を降りきった太平洋に面した海岸岩礁上にあります。建物は、長年の風雨により崩壊が進んでいますが、当時のレンガ造平屋建の姿を見ることができます。この観測所は、遠距離射撃の際に宮山と古山の間を越えて飛んできた砲弾を小山(古山)・尖峰・神島などの各観測所とともに観測する施設でした。



本土決戦のための陣地

● 伊良湖水道機雷封鎖監視所(伊良湖防備衛所)跡

日出町にある日出園地を降りた平地には海軍の防備衛所があって、コンクリートの基礎と伊良湖防備衛所跡の石碑があります。ここは、伊良湖水道を望む見晴らしの良い場所で、伊良湖水道を機雷封鎖して、ここを通過しようとする敵艦や潜水艦を監視し、攻撃することを任務とした施設が建てられていました。

※機雷…海上や海底に設置し、船が触れたり近づくと爆発する爆弾のこと。



● 一色機関銃陣地

和地町の太平洋に面した磯浜にある岩礁を利用して機関銃の銃座とコンクリート製の弾薬庫があります。これは、本土決戦に備えて準備された陣地で、1944(昭和19)年11月より渥美半島沿岸に配属された第73師団(怒部隊)が構築したものです。1945年5月、この部隊が半島の西側に移動すると半島の先端には第153師団(護京部隊)が配備され、太平洋側の所々に本土決戦用の陣地がつけられました。



市内に残る戦争関連の碑

● 忠魂碑と忠魂社

日露戦争以後、これらの戦争で亡くなった人々の霊を慰めるために各地につくられたのが忠魂碑や忠魂社です。その後の日中戦争から太平洋戦争において、忠魂碑の持つ意味はますます重要になりました。戦死病没者の慰霊祭、出征軍人の武運長久などがたびたびこの碑の前で行われ、学校においても(戦時)教育の一環として、たびたび児童による参拝が行われました。戦時中は、国威発揚の中心であった各町村の忠魂碑は、戦後になって撤去されたり、他の場所へ移されたりしました。現在、田原市では、過去の戦争で2,227人の方が亡くなったとされ、合併前の各町には護国神社があります。(この他にも市内には、忠魂碑や戦争関連の記念碑などがあります。)



田原町忠魂社 (1928年) 移設



福江町忠魂碑 (1928年) 撤去



神戸村忠魂碑 (1928年)



野田村忠魂碑 (1928年)



泉村忠魂碑 (1929年)



伊良湖岬村忠魂碑 (1933年)



田原町護国神社 (忠魂社)



赤羽根町護国神社と忠魂塔 (1932年)



渥美町護国神社

● 遠藤中佐と西尾少尉の慰霊碑

神戸町にあるこの碑は、遠藤海軍大尉(のちに中佐)の乗る「月光」が墜落した場所付近に建てられています。遠藤大尉は、1945(昭和20)年名古屋空襲を終えて遠州灘へ抜けるアメリカ軍機B29の編隊を追撃する中で、被弾し墜落、戦死しますが、最後まで同乗者を助けようとし、月光が民家密集地へ墜落するのを避ける努力をしました。



● 渥美線機銃掃射被害跡地付近に建つ慰霊碑

渥美線がアメリカ軍の戦闘機に銃撃されたのは、終戦前日の1945(昭和20)年8月14日のことです。三河田原駅を出発したばかりの電車には、一般の人や成章中学の学生など大勢の乗客がおり、15人の即死者と16人の負傷者が出るという悲惨な出来事となりました。現在の神戸駅から豊島駅に向かう途中の線路脇の機銃掃射跡地付近には、大東亜戦争動員学徒殉職之碑が建てられています。

コラム

殉国者芳名之碑

(サンフランシスコ平和条約記念碑) / 1952(昭和27)年



堀切町にある旧伊良湖岬村の忠魂碑(1933年)と並んで建てられています。この碑は、日本がアメリカなど48カ国と結んだ太平洋戦争の講和条約を記念して建てられたもので、碑面には村から出征されて亡くなった方々の名前が刻まれています。この条約によって、日本は独立を回復するのですが、これを記念して建てられた碑は珍しいものです。

その他の戦争遺跡

●兵士像

故歩兵伍長小久保幸一郎君之像 1939(昭和14)年

この兵士像は、1915(大正4)年に伊良湖に生まれ、1937(昭和12)年の日中戦争に従軍して、9月29日に戦死された小久保幸一郎氏の功績を顕彰するために伊良湖神社の参道入口に建てられたものです。このような兵士(軍人)像は、全国的にみても珍しいものですが、こうした像や日本の敗戦が色濃くなる以前に戦死された方の大きなお墓などをみると当時の人たちの戦死者への配慮をうかがうことができます。また、県内の南知多町の中之院には、同じく日中戦争で亡くなられた68基の兵士像が名古屋の覚王山の月ヶ丘軍人墓地から移設されてあります。



●戦闘機のプロペラとエンジン

田原市白浜一号の渥美漁業協同組合田原事務所前にあるこの戦闘機のプロペラとエンジンは、仁崎の海岸約1kmくらいのところに墜落して沈んでいたものを1973(昭和48)年に引き揚げて、現在の場所に移したものです。この戦闘機は、1944年から1945年頃に(豊橋市明海町にあった)豊橋海軍航空隊基地(大崎海軍飛行場)から飛んで来て墜落したものと思われます。また、機種は日本海軍の陸上爆撃機「銀河」のものではないかと考えられています。



大崎海軍飛行場航空写真(1943年)



●渥美線路盤跡に残る築堤とコンクリート橋



国道から見えるコンクリート橋(石神町)

現在、三河田原駅が終点となっている豊橋鉄道渥美線は、「豊橋伊良湖岬間鉄道計画」として国によって用地買収や路盤工事が行われたことがあります。これは、伊良湖射場に軍需品などを輸送することが目的で、1939(昭和14)年には黒川原～福江間の路盤工事がほぼ完成していました。その後、戦争状況の悪化により延長計画は断念されますが、工事が行われた場所には、「工」マークの杭(用地界標)や路盤跡が残っている所があります。

●コンクリート製梵鐘

この梵鐘は、田原市博物館の駐車場の片隅にひっそりと置かれています。その形は、お寺にある梵鐘のようですが、よく見ると本来は青銅でできていたはずの鐘がコンクリート製で中は空洞ではありません。これは、太平洋戦争中に供出された金属類回収令により供出された西円寺(野田町)にあった梵鐘の代用品としてつくられたものです。鐘の側面には「昭和十八年二月 大東亜戦線 紀念…」と刻まれているのですが、お寺の記録によると、1943(昭和18)年3月16日に多くの檀家が見守る中で本来の梵鐘は供出されていったということです。

このような梵鐘がつけられた理由としては、重量のある梵鐘が降ろされたことによって建物(鐘楼)が倒れないため、またお寺のシンボルとしての姿が失われないようにするためというやむを得ないものでした。



ここに紹介した以外にも渥美半島(田原市・豊橋市)には、
たくさんの戦争遺跡が残されているよ。
興味のある人は、博物館で聞いたり図書館に行って調べてみてね!!

番外編

田原中部小学校に残る青い目の人形

右の青い目の人形は、名前をマーシャル・セントラルといい、1927(昭和2)年にアメリカから友情の証として贈られたものです。当時、日本中の学校に12,000体以上が贈られたのですが、戦争が激化すると敵国の人形として、焼かれたり壊されたりするなどの悲しい運命をたどり、現在では全国で200体ほどが残されているのみです。そんな貴重な人形が市内の田原中部小学校に残されています。



田原駅前での人形出迎え

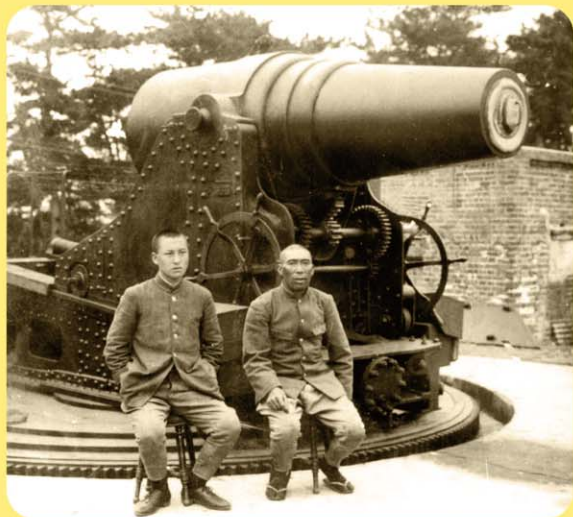
渥美半島の主な戦争遺跡MAP

1 笠山の機関銃陣地	9 鬼墮の陣地	18 和名山の陣地
2 蔵王山の陣地	10 渥美線路盤跡に残る 築堤とコンクリート橋	19 骨山の陣地
3 コンクリート製梵鐘	11 越戸の陣地	21 伊良湖水道機雷封鎖監視所
4 遠藤中佐と西尾少尉の 慰霊碑(月光墜落地)	12 山田の陣地	22 28糎榴弾砲陣地
5 渥美線機銃掃射被害 跡地付近に建つ慰霊碑	13 和地の壕	23 兵士像・伊良湖集落移転記念碑
6 戦闘機のプロペラ	14 一色観測所	24 伊良湖岬の陣地
7 野田の監視哨	15 一色機関銃陣地	25 伊良湖ベトン
8 高松の陣地	16 小塩津の陣地	26 福江(島) 観測所
	17 右禅坊観測所	27 伊良湖射場

※ 黄色い背景は、パンフレット掲載の戦争遺跡



※この図は、『愛知県史 別編 建造物・史跡 文化財1』などをもとに作成したものです。



六階建と無線電信所

◀ 伊良湖射場にあった28糎榴弾砲

地元の人の話によれば、伊良湖にあった28糎榴弾砲陣地には、この大砲が2門配備され、終戦当日の午前には北方中山町の方角に向けて一発発射されたということです。

【凡例】(この本を読む前に)

- この本の中で、戦争とは日中戦争から太平洋戦争のことです。 ●この本で紹介した戦争遺跡が田原市内にあるすべての戦争遺跡ではありません。
- 戦争遺跡は、危険なわりにくいところにあたり、勝手に入ったりしてはいけないところにもあります。見学する時には、注意して見学してください。
- この本に掲載した資料(写真)は、豊川市桜ヶ丘ミュージアムや御厨野文庫、個人から借用、田原市博物館や渥美郷土資料館が所蔵しているものを使用しました。

【主な参考文献】(この本をつくるのに主に参考とした本)

- 『愛知県史研究 第4号』「陸軍伊良湖試験場の沿革と現存する建物群について」
伊藤厚史 2000年3月 愛知県
『愛知県史 別編 建造物・史跡 文化財1』2006年 愛知県
「広報たはら(No719) 平成24年8.1号 特集」2012年 田原市
『伊良湖誌』2006年 伊良湖自治会
『渥美半島 郷土理解のための32章(改訂第2版)』2013年 愛知県立福江高等学校
『激動の昭和-戦中・戦後の暮らし-』2005年 渥美町郷土資料館 ほか



田原の文化財ガイドV

渥美半島の戦争遺跡

発行◎2015(平成27)年7月(初版)
2016(平成28)年7月(2刷)
2023(令和5)年3月(デジタル版)
編集・発行◎田原市教育委員会(田原市博物館)
〒441-3421
愛知県田原市田原町巴江11番地1
制作◎株式会社シンプリ